

## 令和2年度第3学期始業式式辞

みなさん、あけましておめでとうございます。充実した冬休み、そして健やかな正月を過ごすことができたでしょうか。

今日から3学期です。また、令和3年もスタートしました。今年は「丑年」ですが、「丑」という漢字は中国で生まれた字で、本来の意味は、植物の種の中で種子が伸びきらずに絡み合っている状態の意味があるそうです。まさに発芽しようとしている状態です。これを後に覚えやすくするために動物の牛の意味が与えられました。そのようなことから丑年は「芽が出るつまり発展の前触れの年」とか、ゆっくりとした歩みながら「辛抱強く確実に一步一步たどる年」となると言われています。また、丑に糸へんを付けると紐になります。人と人、また人と願いを結びつける意味も丑年には込められています。特に3年生は自分の希望する進路先と結びつくといいですね。

3学期は、締めくくりの学期と言われますが、同時に次への準備の学期でもあります。2学期の終業式で教務課長の先生が「3学期は次の年度の0学期」といわれていました。覚えていますか。

3年生は、卒業式という高校生活のフィニッシュラインが待っていますが、同時に、新しい世界へ向けてのスタートラインでもあります。鮮やかなスタートを切るべく準備を怠らないようお願いします。

また、1、2年生は、それぞれの学年の総仕上げをするとともに、一つ上の学年に向けて、自覚を持って意欲的に学校生活を送ってもらいたいと思います。**締めくくりとか総仕上げとは、やるべきことを最後までやりきる**こと。しっかりと取り組んでください。

さて、私はテレビをよく見るのですが、何年か前の年末に、お笑いタレントの明石家さんまさんがテレビでのインタビューで話した言葉を紹介したいと思います。

さんまさんは「自身の笑いのベストシーンは」という質問に、それまでの柔和な表情が真剣なものに変わって、次のように答えていました。「毎日ベストシーンは塗り替えてる。今がベストシーン。生きていて今日という日が頂点」。「昨日はもうベストじゃない。昨日の経験を踏まえて今日だから、今日が、今がベスト」と話していました。

お笑いという非常に厳しい人気商売の世界で、日々、一瞬一瞬を全力投球してきたからこそいえる、重い言葉だと私は感じました。

もう一つ、別の人の話を紹介します。がんの闘病を経験した女子プロレスラー北斗晶さんの話です。今年叶えたい夢を聞かれ、「日々是好日」であると言っていました。

そして、続けて次のように話していました。「《日々是好日》というのは禅の言葉で、『かけがえのない今日という日を素直に受け止めよう』という意味なんです。家族みんなが健やかに朝起きて、おはようと言える幸せ。おやすみと言えるありがたさ。当たり前のことって当たり前じゃないって気づくことができました。」

さらに、もう一つ、坂村真民の「今」という詩を紹介します。

『今を生きて咲き 今を生きて散る花たち

今を忘れて生き 今を忘れて過ごす人間たち ああ花に恥ずかしい 心いたむ日々』

いろいろ紹介しましたが、今日、昨日までの経験を糧に、「今日が、今が一番がんばった」  
と思えるよう、いずれ昨日になる今日を、そして明日につながる今日を、感謝の気持ちと  
夢や目標を持って精一杯生活したいものだと思います。

今日は、丑年に因んだ「発展のための準備」と「着実に前進するために、今日一日、今  
の一瞬を大切に」というお話をしました。

それでは、充実した一日一日を積み重ねて、あとで振り返ってみたら素晴らしい3学期、  
そして素晴らしい令和3年であったと思えるようがんばりにしましょう。そして、121  
年目に向けて皆さん全員で、今以上に「活力あふれる」八幡浜高校を作っていくてくれる  
ことを期待して、式辞とします。

令和3年1月8日

愛媛県立八幡浜高等学校

菊地 英明